

5. 島田小学校PTAへの「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成28年（2016年）3月7日（月）18時～

○場 所：島田小学校 体育館

質問・意見等	豊中市からの回答
<p><b>資料P11にある「通学区域の課題」について、「義務教育9年間の系統的・連続的な教育活動を推進する上で、分割校の存在が障壁となる」とされているが、小中が密に連携し、子どもの引き継ぎを行うのは、今に始まったことではなく、小中教職員の職務である。これを理由にするのはおかしい。</b></p>	<p>今現在、分割校が小中の連携や引き継ぎを行っていないわけではありません。小学校側にすれば、2つの中学校を相手に、子どもに関する情報の共有・引き継ぎをすることになります。授業の仕方や、研究内容を共有するにも、お互いの歩み寄りに時間がかかります。スピード感からしても、分割校が障壁となっているという意味であり、行っていないという意味ではありません。誤解を招いてしまう表記となり、申し訳ありません。</p>
<p><b>資料P32にある(仮称)南部コラボとの連携内容に、図書館以外あまり魅力を感じない。この内容で、どれだけ地域の方が利用するのか。結果、税金の無駄使いとなるのではないか。</b></p>	<p>(仮称)南部コラボセンターは、公共施設を再編し、複合施設として再整備するものです。市民活動の拠点、子育て支援の拠点、保健センター等の機能も検討されており、主に市民協働部が中心となって進められています。資料P32の内容は、教育との連携が想定される部分のみを抜き出してお示ししています。その他、福祉や子育て、健康増進、就労支援等に関する機能も複合する方向で検討が進んでいます。</p>
<p><b>今回の構想案は進んでいくものと思うが、最終決定されているのであれば、意見を言っても無駄になってしまう。最終決定はいつなのか。また、意見はいつまで聞き入れてもらえるのか、その期限を知りたい。</b></p>	<p>今回、2つの構想案をお示ししたことで、教育環境の整備、充実を進めていくという強い意思表示をしたものと考えています。資料には、最速の場合のスケジュール例を掲載していますが、スケジュールありきで進めるのではなく、多様なご意見を広く伺い、進めていきたいと考えています。全てのご意見にお答えすることはできませんが、判断材料とするためにお伺いしたいと考えています。今回お示しした案は、敷地面積や通学距離等を勘案し、この2案となっています。今後ご意見をお伺いする中で、さらに良い案があれば、全く異なる案や、今の2案をアレンジした案になるかもしれません。決してこの2つの案に固まっているわけではありません。</p>
<p><b>今回の構想案は2案とも、プールが屋上に配置されている。その危険性や安全面についてはどのようにお考えか。</b></p>	<p>今回の校舎配置はあくまで一例をお示ししたもので、決まったものではありません。豊中市では大池小学校が屋上にプールを配置していますが、安全対策は万全を期しています。今後、具体的な設計の段階で他市事例も参考に、ご意見を伺いながら検討していきたいと考えています。</p>
<p><b>再編スケジュールにある工事期間中に、なぜ野田小学校に移転しなければならないのか。</b></p>	<p>再編スケジュールは、最速の場合を想定したものであり、決まったものではありません。工事期間中、運動場にプレハブ校舎を建設することは、敷地の広さからしても厳しいと考えています。また、既存の学校を最後まで存続するといった考</p>

	<p>え方もあり、今回お示ししたもので決まったわけではないので、今後ご意見も伺いながら検討していくことになります。今後、新しくできた校舎で、円滑にスタートがきれるような方法を検討していきたいと考えています。</p>
<p><b>今回示された 2 つの構想案で決定ではないと伺った。その中で、なぜ耐震工事が止まってしまったのか。</b></p>	<p>この 2 案で決まったわけではありませんが、どちらの案にも島田小学校が（候補地に）入っていないことが 1 つの理由です。さらに、当初、耐震工事は平成 24 年度から着工の予定でしたが、入札不調等で遅れてしまいました。2 期工事は建て直しが前提となっており、現在の島田小学校の児童数にあわせた設計となっています。もし、今後島田小学校の校舎が使用されることとなった場合、現設計では、1,000 人規模の学校に対応できません。また、使用されない場合は、十数億円という予算を投じて建て直すことの是非が課題となります。今現在、島田小学校に通う子どもたちの安全確保に加えて、今回の学校再編に伴う施設の利活用等も勘案し、耐震工事の在り方を見直し、仕切り直しをする意味からも、一旦凍結となりました。</p>
<p><b>耐震工事が必要だから、耐震工事が始まったはずである。子どもたちは安全な学校で学習すべきだが、このままでは安全な学校ではなくなる。今回の構想と、今いる子どもたちの安全面は別問題ではないのか。</b></p>	<p>豊中市としては耐震化プロジェクトチームを立ち上げ、全ての学校で平成 27 年度に完結するよう、耐震補強工事を進めてきました。島田小学校は補強することが困難なため、減築補強や建て替えの方向で計画してきました。その後、この構想案が出されたという流れです。子どもの安全を最優先に考え、関係部局と連携しながら検討していきたいと考えています。例えば、耐震補強のされていない棟は立ち入り禁止にし、その中の特別教室に関しては、プレハブ校舎を建てるなどして対応するなど、児童の安全を第一に検討していきたいと考えています。</p>
<p><b>子どもの安全を第一に考えているのであれば、工事を進めてほしいと切に願っている。</b></p>	<p>ご意見としてお預かりします。</p>
<p><b>構想案の北校は 3 校が含まれている。また、空港線は交通量も多く、PTAの方に立っていただいたり、地域の方に協力いただいたいしながら校区みんなで見守っている。今回の北校再編では、今の島田小学校すべての校区が含まれているのか。</b></p>	<p>北・南校の区切りについて、資料 P17 に示しているように、既存の小学校区を基本として、南北校とも 3 校区ずつ合わせる形で検討しています。ほとんどの地域コミュニティの構成単位が小学校区であり、激変をおこさないように、今回の区切りで検討しています。今回、お示しした構想案では、現島田小学校区を分断することは想定していません。</p>

<p>最速のスケジュールでいくと準備期間が3年となる。現在の学校のPTAでも運営が厳しいところがあるが、各校ルールや悩みが異なる中で、3校合同のPTA運営は果たしてうまくいくのか。また、前回の説明会で、教職員からとまどいの声があった。実際の先生が9年間の小中一貫校を悩んでいる中で、教育面でどのように考えているのか。小学校と中学校の節目も必要であると考えている。学校同士が早めに集まって準備委員会を立ち上げるという話も聞いた。そのあたりは検討されているのか。</p>	<p>先日の説明会では教職員からとまどいが感じられる発言もありました。しかし、小中連携の取り組みは全市的に進めてきたところではあります。小中一貫校といえども、小学校と中学校の区切りは残す事もできます。教育課程修了式や、立志式を行うなど、全国事例も多くあり、今後、学年の区切りを工夫することは可能と考えています。また、準備委員会の立ち上げについても、他市事例も参考にしながら、検討することになると考えています。ただ、構想案が2案ある今ではなく、計画が固まり、学校名・校歌・校章など具体的に詰めていく段階で、教職員、保護者、地域の方等で構成する準備組織を立ち上げることにしていると考えています。今現在では、必ず立ち上げるとは言い切れませんが、新しい学校を再編するためには必要であると考えています。</p>
<p>校区が非常に広がる。校区内に高速と国道を含んでおり、宝町から東町までとなるとかなり広域になる。登下校の安全はもちろんのこと、放課後の過ごし方の範囲も広域となる。通学距離が2kmを超えるところは他にもあるのか。また、校区の区切り方を説明してほしい。</p>	<p>豊中市内の小学校で通学距離が2kmを超えるところはありません。中学校では、自転車やバスで通学している例はあります。小学校の場合、子どもたちだけで校区外には行かないように指導していますが、校区自体が広がることは確かであり、安全面の確保については、今現在、答えを持ち合わせていません。地域の方の声をお聞きしながら、またお知恵をかりながら今後検討することとなります。豊中市の動きとして、「見守りカメラ（防犯カメラ）」を整備することが検討されています。小学校の通学路を中心に設置箇所を検討していく方向です。防犯カメラの設置は犯罪の抑止力となったり、事後の調査には有効ですが、それで万全というわけではありません。今回はご意見を持ち帰らせていただきます。</p>
<p>防犯カメラを設置する予算があるなら、スクールバスは考えていないのか。</p>	<p>できるかできないかの話でいくと、可能性はありますが、今現在、通学にスクールバスは想定していません。防犯カメラは危機管理課が担当ですが、今後、ご意見をいただく中で、スクールバスも必要となれば、さまざまな観点から議論することになります。</p>
<p>放課後のあそびは、自転車移動が中心となる。大きな道路をまたぐ歩道橋は、自転車をおして渡ることのできる歩道橋に整備して欲しい。また、小学生は自転車で歩道を走行できるが、歩道も整備されていないところも多いため、歩道の段差等も含め見直しをして欲しい。この機会に街ぐるみの見直しに期待する。</p>	<p>道路整備に関しては都市基盤部が所管しております。いただいたご意見は持ち帰り伝えます。</p>

<p><b>宝町 2 丁目の自宅から野田小まで大人の足で 35 分かかった。その距離を小学 1 年の児童が重い荷物を持って、また雨が降ったりするとさらに時間がかかる。なぜその距離を徒歩通学圏内と考えたのか。</b></p>	<p>野田小学校への移転は、事前に仮開校することを想定した一例です。今回お示ししたスケジュール等は最速の場合を想定したものであり、まだ検討が十分ではありません。実際に歩いて検討したわけではなく、地図上での計測にとどまっています。仮に、平成 30 年度末に全校閉校となると、周知や準備に時間がかかることから、かなりタイトなスケジュールとなります。今後、どのようにして円滑に新しい学校に繋げていくか、検討を重ねていきたいと考えています。</p>
<p><b>「安心・安全」を繰り返し言われるが、学校がなくなってしまうと、避難所がなくなる。災害時は、どこに避難すればいいのか。危険が増しているようにしか感じない。</b></p>	<p>体育館は避難所対応として、校舎より先に耐震工事を行っています。跡地利用について、避難施設として残すのか、地域の方のご意見を伺いながら検討し、決めていくこととなります。再編の対象となる小・中学校は特定施設とされ、どのように活用していくのか、例えば、子育て支援拠点や、地域のコミュニティ拠点、運動場の一部売却なども含め、地域の方のご意見もお聞きしながら検討していくこととなります。そのため、今回の構想案の中に、跡地利用については明記されていません。</p>
<p><b>跡地利用の件も含め、学校がまとまると、人数に対して運動場が狭くなる。さらに小中一貫校となると、中学校はクラブがあり、運動場などが使用されることとなる。小学生の放課後の遊び場としての運動場がなくなってしまう。ただでさえ、公園でボール遊びができず、遊び場が減っている中、小中児童生徒が混在する運動場の利用については、どのように考えているのか。</b></p>	<p>学校敷地内に、小中を住み分けした運動場や広場の設計は検討していますが、それだけではなく、他市の事例では、旧学校の運動場を部活動や遊び場として使用している例もあります。また体育館は、避難所や地域開放のため残ることも多いです。学校の跡地利用として、校庭開放や部活動で使用することも考えられます。</p>
<p><b>クラス替えができない小規模校問題の解消のための学校再編ということは理解できるが、あまり使用しないところであれ、通路として使用する校舎の耐震工事が凍結してしまう。やはり、未来のことももちろんだが、今いる子どもたちの安全を最優先で考えていただきたい。</b></p>	<p>今回、凍結となった耐震工事について、予算をなくしてしまうわけではありません。プレハブを建てるなど方法を変更することで安全確保が可能と考えています。跡地利用を考慮するとかなりの時間がかかってしまうことになりかねません。様々な可能性を考え、平成 28 年度のできるだけ早い段階で、方向性をお示ししていきたいと考えています。設計に時間もお金もかかりますが、安全の確保ができ、一番無駄の少ない案をご提案したいと考えています。</p>
<p><b>今までの話を聞いて、教育委員会の「やるんだ」という強い意思是伝わってきた。また、検討中の案件も多く、多くの意見を吸い上げようとしている意思も伝わってきた。しかし、役所は縦の連携は強いが、横の連携が弱いと言われている。実際に今日の説明会でも、他部局への持ち帰り案件も多かった。教育委員会だけで決められないものも多くあるかと思うの</b></p>	<p>ご指摘のとおり、今日の学校再編は教育委員会だけでできるものではなく、他部局との横の連携を強めていきたいと考えています。また、市議会 3 月定例会で平成 28 年度の予算審議が始まっており、その場で市長が市南部の「魅力ある学校」づくりとまちづくりについて注力する旨、議会で答弁しました。今回の「魅力ある学校」づくりも、市をあげて進めていくべきことだと認識しています。今日いただいた意見も、持</p>

<p>で、関係する部局が一緒になって、この計画を進めて欲しい。子どもを育てるといことは、地域が育っていくということに繋がるので、今回の「魅力ある学校」づくりという言葉が、形だけにならないように、しっかり横との連携をし、再度この計画の話聞かせてほしいと思った。</p>	<p>ち帰り各部局に伝えます。</p>
<p>体育館は、避難場所として一番に耐震工事が行われたと聞いたが、津波が来た場合、この体育館も浸水してしまうのではないか。校舎も3階に減築され、屋上も屋根となっており、避難できない。私たちはどこに避難すればいいのか。</p>	<p>島田小学校だけではなく、避難所として指定されている豊中市内の小学校 41 校と中学校 18 校の体育館すべてが、全ての災害に対応できる、耐えうるものであるとはいえないのが現状です。何百年に一度の災害に対し、莫大な予算を投資して、シェルターのような頑丈な施設を作ることは現実的ではありません。普段使う機能に加えて災害時には避難所として、あるいは防災拠点として活用できるようにしておくことが現実的な対応と考えます。地震災害で津波を伴わない災害の場合はこの体育館が避難所として使用できますが、津波が発生した場合は臨機応変に高い建物等に避難いただくこととなります。市としては、その後の復旧、復興にむけて手を尽くしていくこととなります。おそらく、どこの市町村でも、大金をかけて全ての災害に耐えうる頑丈な避難施設を作っているという例はないと思われます。一般的には基準があり、普段使用できる施設で、その基準をクリアしたものが避難所となっています。</p>